

矢印は、前週の数に対して 増加 減少 横ばい を表しています。

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↓ 3,482	3,594	百日咳	→ 0	1
RSウイルス感染症	↓ 30	37	ヘルパンギーナ	→ 2	2
咽頭結膜熱	↓ 12	19	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	↓ 49	57
A群溶血性連鎖球菌 咽頭炎	↑ 66	55	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↓ 565	715	流行性角結膜炎 (はやり目)	→ 12	11
水痘	↓ 59	87	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	→ 1	0	無菌性髄膜炎	↓ 0	2
伝染性紅斑 (りんご病)	→ 7	7	マイコプラズマ肺炎	↓ 1	4
突発性発しん	↓ 30	34	クラミジア肺炎	→ 0	0

報告が多い  
感染症

- インフルエンザ
- 感染性胃腸炎
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎

- インフルエンザは、報告数 3,482件(前週報告数 3,594件)とわずかに減少。地区別では、菊池、人吉、八代に多く報告がみられる。年齢別では、10~14歳の547件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- 感染性胃腸炎は、報告数 565件(前週報告数 715件)と減少。地区別では、山鹿、人吉、菊池に多く報告がみられる。年齢別では、10~14歳の84件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は、報告数 66件(前週報告数 55件)と増加。地区別では、菊池、熊本、天草に多く報告がみられる。年齢別では、3歳の11件を最多に、主に10~14歳以下からの報告である。

## ◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	1091	3	6	32	194	24	0	4	12	0	0	8		9				1
山鹿保健所	90	0	0	0	78	0	0	0	1	0	0	1	*	*				
菊池保健所	621	3	5	13	62	14	1	1	5	0	1	8						
阿蘇保健所	68	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	*	*				
御船保健所	50	0	0	2	12	2	0	0	0	0	0	0	*	*				
八代保健所	413	2	0	0	19	0	0	0	3	0	0	3						
水俣保健所	56	5	0	2	8	0	0	0	0	0	0	11	*	*				
人吉保健所	302	9	0	2	52	1	0	0	2	0	0	1	*	*				
有明保健所	316	0	1	2	56	5	0	0	2	0	0	7		3				
宇城保健所	301	1	0	5	45	3	0	1	3	0	0	4						
天草保健所	174	7	0	8	34	10	0	1	2	0	1	6						
計	3482	30	12	66	565	59	1	7	30	0	2	49	0	12	0	0	1	0

## ◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上
インフルエンザ	3482	17	55	154	205	293	296	308	278	193	192	142	547	101	99	229	127	94	67	48	37
小児科定点年齢	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上						
RSウイルス感染症	30	6	7	11	5	1															
咽頭結膜熱	12	1	1	4		1	1		1	2	1										
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	66		2	1	5	11	7	10	9	9	3	6	2		1						
感染性胃腸炎	565	5	33	65	42	40	40	51	30	35	29	32	84	22	57						
水痘	59	1	3	12	18	12	7	2	1	2			1								
手足口病	1				1																
伝染性紅斑	7				1	2				2	1		1								
突発性発しん	30	1	14	15																	
百日咳	0																				
ヘルパンギーナ	2			1					1												
流行性耳下腺炎	49			3	4	5	11	6	14	3	2		1								
眼科定点年齢区分	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0																				
流行性角結膜炎	12															1	6	4	1		
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0																				
無菌性髄膜炎	0																				
マイコプラズマ肺炎	1			1																	
クラミジア肺炎	0																				

大きな流行が発生  
又は継続しつつある地域

インフルエンザ : 熊本・山鹿・菊池  
八代・人吉・有明・宇城

感染性胃腸炎 : 山鹿・菊池・人吉・宇城

流行性耳下腺炎 : 水俣

インフルエンザ

県全体のインフルエンザの患者報告数はやや減少しました。しかし、11地域中5地域(菊池、阿蘇、水俣、人吉、有明、宇城)では先週より報告数が増えており、依然として7地域が警報レベル、4地域が注意警報レベルにあります。インフルエンザは、突然の高熱と寒気、頭痛、全身のだるさ、筋肉痛などの全身症状が特徴です。時には肺炎や脳症などを併発して重症になることもあります。予防には、①流行時には人混みを避ける②手洗い・うがいを習慣づける③栄養、休養、睡眠を十分に取る④部屋の換気と保湿に心がけるなどの対策を行いましょう。もし、インフルエンザにかかってしまった場合は、学校や職場へは無理して行かず、早めに医療機関を受診し治療を受けましょう。また、周りの人へうつさないために、咳エチケットを心がけ、外出を控えるようにしましょう。一方、警報レベルにあった感染性胃腸炎は、今週終息基準値を下回りました。しかし、地域別では未だ警報レベルのところもあります。引き続き手洗いの徹底など予防に努めてください。